

学会ハイライト

第34回日本美容皮膚科学会総会・学術大会 を終えて

(平成28年8月6, 7日, 東京都新宿・京王プラザホテルにて)

林 伸和

虎の門病院皮膚科部長

はじめに

日本美容皮膚科学会は、1987年に故安田利顕先生が日本美容皮膚科研究会として創立されました。2000年を過ぎてから急速に大きくなり、現在では2,000名近い会員数になっています¹⁾。今年になって任意団体から社団法人に移行し、第34回日本美容皮膚科学会総会・学術大会は、移行後初めての学術大会でした。

美容皮膚科という領域の特殊性を考えると、虎の門病院のような急性期を扱う臨床病院で担当できるのか不安でしたが、平成28年8月6, 7日に、東京都新宿の京王プラザホテルにて開催し、結果的に1,279名の参加者にお集まりいただき、無事盛会裡に終了できました(図1)。講演の講師や座長の先生方、ご参加いただいた皆様、支援を頂戴した企業の皆様、そして忙しい診療の中で懸命に準備してくれた虎の門病院のスタッフ全員に感謝申し上げます。とくに学会の運営全体にご助言を頂戴した理事、代議員、プログラム委員の先生方、細部にわたりアドバイスいただいた順天堂大学浦安病院の須賀康教授、熊本の震災で大変な中、たくさんの演題を発表いただいた尹浩信教授、神人正寿准教授をはじめとした熊本大学の先生方、懇親会をサポートしていただいた宮本武様ご夫妻に御礼申し上げます。

本学術大会のテーマ

本学会のテーマは、「美容皮膚科の足元を固めよう」にしました。足元というと基礎を固めるという印象を与えてしまったかもしれませんが、高齢化社会に対応した医療の在り方や、美容外科、化粧品、海外の状況などの美容皮膚科の周辺を取り巻く環境を理解し、足元を固めたうえで、エビデンスにもとづく美容皮膚科の発展を図りたいと



図1 会場入り口案内板。

考えていました。また、学術的な分野としては、光老化と私の専門である痤瘡に力を入れました。レーザーや医薬品、化粧品などを用いた個別の治療についてはスポンサーセミナーにお任せしました。

会頭講演

開会のご挨拶を兼ねて、全体のプログラムのご紹介に引き続き、「にきびのエビデンスを求めて」と題して、私が痤瘡を研究テーマに選び、その後のどのような経緯でこれまでに至ったのかをお話しし、私を痤瘡の世界に導いてくださった前NTT東日本関東病院副院長の原田昭太郎先生と東京女子医科大学教授の川島 眞先生への御礼を申し上げました。とくに『尋常性痤瘡治療ガイドライン2016』に関する詳細は、学会抄録集掲載誌の総説²⁾として掲載していただきました。

特別講演

超高齢化社会を迎えるにあたり、高齢者の健康寿命を延伸するためのフレイル(加齢に伴う全身の衰弱)対策を、日本老年医学会前理事長で虎の門病院院長の大内尉義先生にご講演いただきました。座長は大内先生の大学での同級生であり、前虎の門病院皮膚科部長の大原國章先生にお願いしました。加齢性筋肉減少症(サルコペニア)の予防には瞬発力を発揮する白筋(速筋)が大切で、トレーニングが大切であることなど、目から鱗の話がありました(図2)。

教育講演

教育講演としては、エビデンスにもとづく美容皮膚科を勧めるために「美容皮膚科に関係するガイドラインのポイント」と題して、痤瘡、ケミカルピーリング、男性型脱毛、原発性局所多汗症、接触皮膚炎のガイドラインをそれぞれのガイドライン作成委員の先生方に概説していただきました。また、「美容皮膚科のオーバービュー」では、しみ、皺、たるみ、にきび跡の治療について美容皮膚科の第一線を実践されている先生方をお願いしまし



図2 特別講演(座長の大原國章先生から演者の大内尉義先生へ感謝状授与)。

た。

シンポジウム

「他学会との連携」として、美容外科学会の立場から北里研究所病院形成外科・美容外科の佐藤英明教授、化粧品学会の立場から資生堂の片桐千華先生にお話しいただき、さらにIMCUSという海外の美容皮膚科の状況を尾見徳弥先生に講演していただきました。また、「サンスクリーン剤について考える」と題して光老化の啓発を兼ねたシンポジウムを行いました。

さらに、痤瘡をテーマとした国際シンポジウムに、グローバルアライアンスの座長の1人であり、世界の痤瘡研究を牽引しているJohn Hopkins大学主任教授で米国痤瘡学会の理事長のSewon Kang教授と、アジアで痤瘡関連の原著論文数が増えつつも多いSeoul大学教授で韓国痤瘡学会理事長のDae Hun Suh先生に海外の痤瘡治療の最先端をお話しいただきました。

日本痤瘡研究会との合同シンポジウムでは、*Propionibacterium acnes*、皮脂腺細胞、自然免疫、過酸化ベンゾイルの作用など痤瘡の基礎研究の最前線を概説いただき、中間報告では東海大学形成外科の河野太郎先生に「色素レーザー」についてご講演いただきました。また、NPO法人皮膚の健康研究機構との共催で行った市民公開講座「知って



図3 優秀演題の口演と授賞式(感謝状と記念の盾、副賞の授与)の後に行われた優秀演題受賞者全員で撮影。

いますか？ お肌の光老化って」では、タレントの友利 新先生が出産直前にもかかわらず、出身地の宮古島の例を取り上げながら紫外線防御を啓発する講演をしていただき、盛況でした。

優秀演題

第34回日本美容皮膚科学会では、抄録をもとにプログラム委員の投票により優秀演題が選ばれ、口演の後、表彰状と盾、副賞が授与されました(図3)。

懇親会

和のテストをコンセプトに企画しました。最初に江戸消防記念会の皆さんに纏と木遣りをご披露いただき、江戸の三本締めで締めていただきました(図4)。音頭をとってくださったのは江戸末期の火消しとして有名な神門辰五郎から代々引き継がれた伝統の第5区3番組の頭でした。その後、川島 眞日本美容皮膚科学会理事長のご挨拶に続き、島田眞路日本皮膚科学会理事長の乾杯のご発声で始まりました。

食事は、洋風のビュッフェに加え、寿司、すき



図4 懇親会での江戸消防記念会の方々による木遣り歌の後に行われた三本締め。



図5 川島 眞日本美容皮膚科学会理事長から和歌山県立医科大学の上中智香子先生へ2015年度 Aesthetic Dermatology優秀論文賞が授与された。



図6 懇親会で川島 眞日本美容皮膚科学会理事長、島田眞路日本皮膚科学会理事長とともに。

焼き、和風のデザートなどの屋台と日本酒を用意しました。舞台右手に茶屋風のベンチを配置したのですが、気軽に座って食事ができる場所として好評でした。ご歓談の後、日本美容皮膚科学会雑誌賞の授与に続いて、浅草の芸妓の方々による舞を披露していただき、さらに会場での写真撮影にも入ってください、とても華やかな会となりました(図5, 6)。

おわりに

平成29年は近畿大学奈良病院の山田秀和先生、

平成30年はクイーンズスクエアメディカルセンターの尾見徳弥先生が担当されます。また、今回の総会で平成31年には熊本大学の尹 浩信先生、平成32年には日本医科大学の船坂陽子先生が担当されることが決まりました。日本美容皮膚科学会の今後のますますの発展を祈念して筆をおきます。

<文 献>

- 1) 漆畑 修: Aesthetic Dermatol 25: 1, 2015
- 2) 林 伸和: Aesthetic Dermatol 26: 89, 2016